



アンコールクライマーズネット (ACN) ニュースレター

by Angkor Climbers net

アウトドア総合ブランド (株) モンベル、アウトドアギヤ輸入販売 (株) ロストアローより賛同・支援をいただいています。

<http://www.angkorclimbers.net/>

2012/3/31 第9号

クライミングコンペティション・アンコールカップ2012開催



CCFクラス女子総合優勝のデビィ18才



CCFクラス男子総合優勝したセイハのクライミング



大会役員席、左から、通訳ヒア氏、ACN・伊藤、DR.コンキムアン、Mr. ウンスレディ、一人おいて、州警察官2名



アンコールカップを掲げるセイハ16才

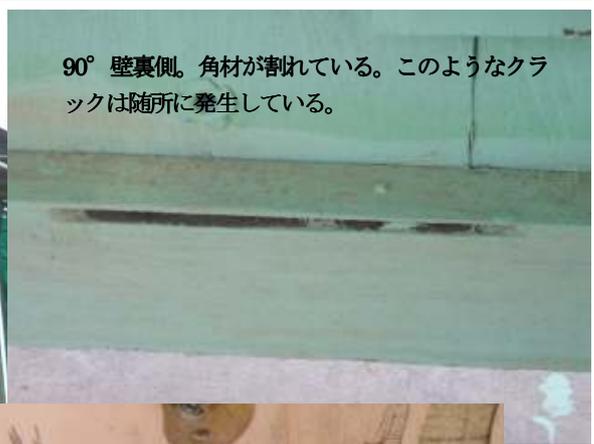
(下) OPEN クラス総合優勝のイタリア人ファビオ氏と優勝インタビューをするスムロン



AW（アンコールクライミングウォール）再生へ向けて



2012年3月現在のAW。コンペ開催のタイミングに前面の屋根を6m拡張した。



90° 壁裏側。角材が割れている。このようなクラックは随所に発生している。



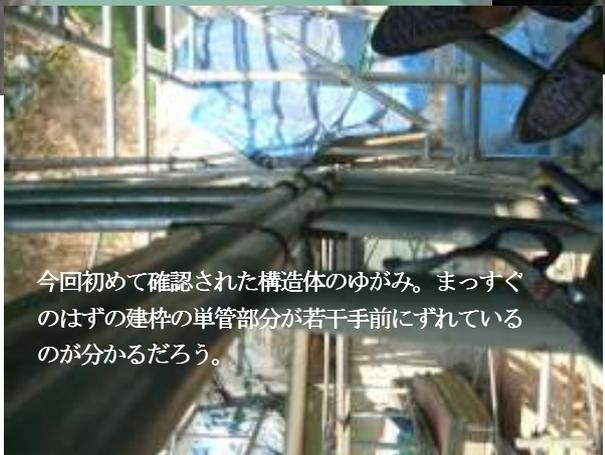
すっかり錆びたジャッキ。また、コンパネボードの下部は、雨のはね返りを受けるせいか、特に劣化が激しい。



クランプの品質が悪いため、溶接で固定したが、さび止めをしなかったので穴が開いた。同様の現象は17ヶ所に及んでいる。



遂に破れた東側のラップシート



今回初めて確認された構造体のゆがみ。まっすぐのはずの建枠の単管部分が若干手前にずれているのが分かるだろう。



壁の背面に近接した単管のクランプはスペースが考慮されておらずメンテナンスが出来ない。

AWは周知のように2010/2/1に竣工した。さらに8ヶ月の調整期間を経て、同年10月、一般に公開した。屋外型の構造であることで、1年の半分に及ぶ雨季の雨、飽和湿度、強い日差しにさらされることのダメージが当初より懸念されていた。対策としてブルーシートですっぽりラップしてしまうことで、それをなんとか凌いできた。しかし、2度目の雨季を迎えた昨年、構造体の溶接箇所へ腐食による穴が13ヶ所見つけた。すべてのアンカーに使ったボルトが錆びてメンテナンス不能となった。コンパネボードの劣化がひどく、設計施工者の承認を受けて、カンボジア側スタッフの自力で一部を交換した。そして2度目の雨季を越え、3年目を迎えた3月現在、溶接箇所の腐食による穴がさらに4ヶ所見つかっている。また、建枠の一部に、構造体本体の歪みと思われる現象が、初めて確認された。設計施工者である森山謙雄氏によれば、当該構造は、資金的な制約からコンペなどの短期利用を想定した止むを得ない構造であり、3年の維持は超限界ではないかとのことだった。そして、このままずるずる利用することは安全上、容認できない事態を避けられないと判断、本年2012年12月に予定しているコンペティション『Angkor Cup 2013』のあと、解体から再生へのプランをスタートしたいと考えている。この件について、ご意見があれば編集者宛てお送りください。

アンコールカップ2012レポート

2012年1月29日(日)、予定通りカンボジアで初めての公式クライミング競技会「Angkor Cup 2012」(アンコールカップ)を実施した。本大会は、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)、シェムリアップ州教育青年スポーツ局(DoEYS)の後援、カンボジアクライミング連盟(CCF)の主催として、実現した。幸運にもほぼ1日中曇りだった。気温26℃~32℃、風、南で2~3m/s。カンボジアでのクライミングではベストコンディションと言える。

真っ暗な6:15に会場のAWをオープン、6:45より受付を開始。エントリーした選手はOPENクラス(自由参加、TR、フラッシュ2本の競技)が23名、CCFクラス(カンボジアクライミング連盟登録選手、リード、予選、準決勝がフラッシュ、決勝以降はオンサイト)が13名、合計36名となった。

・運営体制

ACNスタッフ、メディカルチーム(医師)、セキュリティチーム(州警察)、通訳、カメラクルーなどを入れて、14名、選手、来客を含めると、会場のAWには50~60名ほどが一同に介した。

・リザルト

7:30よりCCFクラス(カンボジアクライミング連盟登録選手)の予選を開始。CCFクラスは男子女子とも2名の同点が出て超決勝、さらに男子は超超決勝となり、15:00全競技を終了。結果は下記urlで参照できる。

CCFクラス → http://www.angkorclimbers.net/article/AC2012_CCF_Result_Light.pdf

OPENクラス → http://www.angkorclimbers.net/article/AC2012_OPEN_Result_Light.pdf

なお、4名の総合優勝者には、Lo-yuyu設計製作、ACNロゴがレリーフとなった直径12cmのセラミックカップ、'Angkor Cup'が贈られた。

★★★★ 謝辞 ★★★★★

本大会には、以下の企業、団体からの協賛、支援を受けることが出来た。ここに記して感謝したい。

・(株)モンベル様、(株)ロストアロー様、Entre Prises Asia様、Singapore Climbers Association(SCA)様、マムートスポーツグループジャパン様、クライミングセンターアートウォール様、クライミングジムビッグロック様(順不同)

●次回、『Angkor Cup 2013』の日程がすでに決まっています。

ご興味をいただける方は、是非、ご記憶されたい。

2012年 12月 16日(日曜日)です!!





NOCCの年次総会にて。
右の写真は、NOCC事務局長ヘントン氏と
ACN伊藤。



(下) 選手を激励する多忙の折、駆けつけ
てくれたCCF理事長、ウンスレディ氏



ACN-YOUTHのメンバーたち



外岩ローインパクトツアーの試み

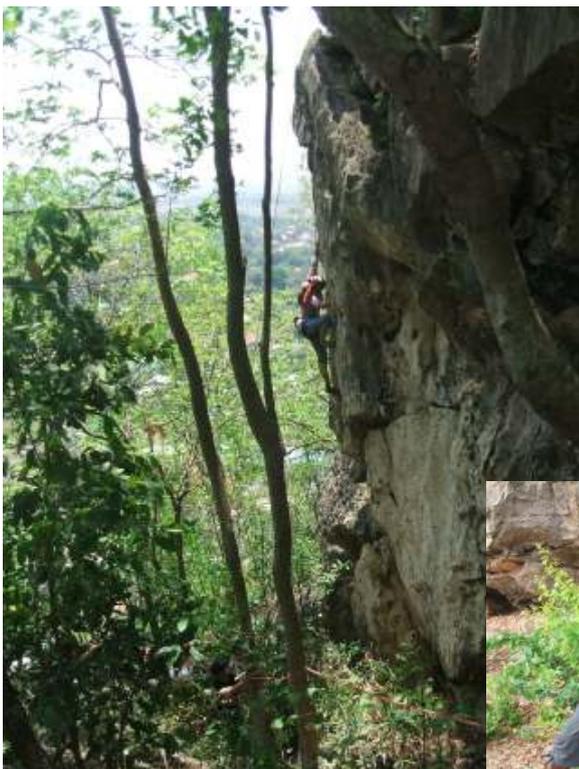
2012年3月18日(日) ACN-YOUTH のシソポン岩場練習に、外国人ビジターの参加を募ったツアーを実施した。様々な不手際と失敗(金額的に足が出た!)はあったが、しかし、参加した欧米人は子供たちとバスに乗ったり、クライミングしたりしたことに誰もが大喜びだった。カンボジアで外岩を登る場合、お寺や地元コミュニティは無視できない。今回、お布施(お寺)と草刈の仕事依頼(コミュニティ)、ファーストエイドの仕事依頼(コミュニティ)などを通じて、倫理上のローインパクトなクライミングツアーが出来たと考えている。これをさらに一歩進めて、子供たちのバス代、食事代を外国人ビジターに購っていただくといった点を、初めから強調してしまうツアーを実施したいと思った。具体的には12月16日に開催するアンコールカップ2013と併せて、日本から同じ趣旨のツアーを企画している。現時点では以下のようなプランが考えられる。詳細は検討中。



★★★★ ボクらは立ちはだかる'壁'を越えて行く ★★★★★

～カンボジアの少年少女と、カンボジアの壁を登る～

イベント	日程	支援のお願い	その他
人工壁体験	10月3週～12月末までの毎日曜日、午前または午後半日	施設利用料、レンタル料金(ギヤレンタルされる方のみ)、子供たちの飲料代、子供たちの交通費(5km以上の距離がある子のみ)	・現地にてイベントのみに参加を希望する方 イベントの3日前まで申し込み受付 ・現地で、宿泊、ウォールへの乗り物、イベント参加などを希望する方 現地旅行社(株)FSUN ツーリストで扱う
コンペ体験(人工壁) 公式競技会「AngkorCup 2013」にゲスト参加	12月16日 全日	子供たちの昼食代、飲料代、子供たちの交通費(5km以上の距離がある子のみ)、終了後に行う抽選会への出典、参加料	・日本からの出発、イベント参加からお帰りになるまでをパックで希望される方 日本の(株)FSUN ツーリストで扱う
カンボジアの外岩体験(シソポン)	12月23日 全日	バスチャーター費用、子供たちの昼食代、お寺とコミュニティへの寄付	



●シェムリアプ州内中高校生対象ワークショップ

ワークショップには合計で市内9つの学校から68名の中・高校生が参加、2011/10/16～2012/1/22の約3ヶ月間で、ウィークデイ・トレーニングも含めて、実質29日間、行われた。参加人数の内訳は下記の通りだ。

学校名	男子参加数	女子参加数	合計参加数	参加者の年齢幅
Colles Angkor	2	—	2	13～16
Kros	9	11	20	8～17
Kosa	6	3	9	11～16
Mouk nook eony	1	—	1	11
Samdek ouv	4	—	4	16～20
10 Makala	3	—	3	16～19
Wat bo	10	2	12	7～16
近所の子(上記の他2つの学校)	3	2	5	9～31
未登録者	7	—	7	
引率教師	3	2	5	
合計	48	20	68	

●ACN-YOUTH

ACN-YOUTHは、20歳以下のACNメンバーだ。年間20人までの枠を設けた。現在、15人。すべてCCFに選手登録されている。僅かな年会費を納る義務があるが、AWとクライミングギヤをフリーで利用出来る。

http://www.angkorclimbers.net/article/20120331_Youth_Log.pdf

ワンポイント技術解説

毎日曜のYOUTHトレーニングの前または後の15分を使って、伊藤からクライミング技術の論理解説を実施している。コンペが終わって一段落した2/19日曜は午前中で練習を切り上げ、午後は映画会をやった。

- 茂垣敬太のHow To Free Climbing / Indoor編
- 平山ユージのLive In Japan

保護者面談

コンペの後、ACN-YOUTH候補者が数名出ている。YOUTHメンバーになるには、18歳未満の場合、保護者の同意が必要。同意を得る過程で、保護者が希望する場合、伊藤、スムロンで保護者と面談することにしている。同意が得られれば、YOUTHのメンバーとなり、リードクライミングの練習をすることが出来る。

●AW関連、補修工事など

◆屋根の拡張工事

コンペにあわせて、ウォールのトタン屋根を前面(西側)に6m拡張した。見積もりは1200ドルだったが、みんなで泣き付いて1000ドルにしてもらった。お陰で、今度の雨季は、ブルーシートでのラッピングをかなり縮小できるだろう。

◆バナー設置

これもコンペにあわせて、ウォール上部に支援団体、ロストアロー、アントレプリーズ、シンガポール・クライマーズ・アソシエーションのバナーを貼り出した。

◆ホールド・リマッピング

すかさずだった90°壁のホールドを一旦外して、アントレプリーズから寄贈された新品のホールドを100個を混ぜて、再度マッピングした。竣工以来初めて。何しろ、経験者がいない。見よう見まねだ。95°、110°にはSCAからのホールドを追加して、部分的なり・マップを行った。全体としてホールドが200個ほど増えたので殆どのルート足限定化が実現した。

●現地スタッフへの管理業務移行

現在、ACNには、大項目として下記の定常管理業務が存在する。

1. 財務会計管理、2. AW利用者管理、3. 資源(備品・資材)管理、4. AW保守管理、5. クライマー育成管理、6. 広報管理、7. 人事管理

これらの管理業務は、これまでは伊藤がすべて担当してきた。これをすべてカンボジア人で主体的に担うのが、ひとつのゴールだろうと考えている。手始めとして、現在、会計管理のカンボジア側をキムスロイへ移行し始めているところだ。最初のテストタームは1ヶ月だったが、評価はまずまず。現在、第3期のテストタームに入っている。Excelがうまく使いこなせないようなので、PCスクールへ入学してもらった。毎月初、前月分の残高試算表と、プルーフを提出してもらっている。

●アウトドア・クライミング

エリア開拓

= シソボン 仮称 ブローケン・バイオン・バットレス(略称3B(トリプルビー)) 石灰岩

前号でお知らせした開拓ターゲットのひとつ。午前11時まで西面が日陰で乾季後半でも登れる。スムロンが先頃、再度TOEKTHLA コミュニティ・リーダーと話し合い、取り付きのタフなブッシュを、岩面から2m幅で刈り払ってもらった。礼金\$2

0. 大きなケープから取り付くフェースがたぶん一番見栄えのする壁で、25mある。3月末現在リードルート1本、トップロープルート2本が完成している。また、スムロンの口利きで地元ヘルスセンター所長に傷害発生時の対応としてファーストエイド及びシムリアプへの緊急搬送をお願いした。

●その他

NOCC総会

2月14日、15日の2日間、プノンペン、ナガワールドホテルバンケットにてNOCC（カンボジアオリンピック委員会）の年次総会が開催された。CCFからは事務局長スムロン、副理事長オグサレイ氏が出席、伊藤は今回もまたNOCC事務局長ヘントンの個人的な招待を受けて出席した。

トレーニングコンペ

昨年のプレアンコールカップ同様、雨季の6/24日曜日に、ノンサポート、ノンタイトルで、AWにてコンペを予定している。誰でも出場できる。参加希望者は、ACN事務局へご連絡されたい。

●NCCC（ニュー・チャイルド・ケア・センター）のクライミングからの撤退について

前号でお約束したが、本号は他の記事が多く、スペースが無くなってしまった。本題目については次号で解説します。どうぞご容赦ください。

From ACN's Desk : 事務局から

・緊急カンパのお願い

・コンペオーガナイズのスタディーツアー、雨季目前の補修など

Angkor Cup 2012 開催の運営反省会で70項目を越える不手際が指摘されました。しかし、日本の指導者層からのご指導、ご支援はなかなか得られない状況です。そこで、地理的にも近いシンガポールで、コンペに手馴れた人々から実践的な、指導を得られたらと考え、コンペの際にホールドを寄贈していただいたSCA（Singapore Climbers Association）へアプローチしました。そして、つい先日受入れ承諾のレスポンスがあり、スムロン、キムスロイの2人を、6月15日～17日にシンガポールで、SCAのハンドリングで開催されるPUMPFESTAコンペティションに派遣したいと考えています。シンガポール国際基金のシニアディレクターMSジェラルディンが便宜を図ってくださっていますが、航空券、滞在費はACN負担となります。土地代の支払いも迫り、3度目の雨季を目前にして、様々な補修費など出費がかさんでいます。かかる窮乏の実情をご理解いただき、皆様の暖かいご支援を切望する次第です。どうぞよろしくお願い致します。

・車、PC、カメラなど

現地運営用に、車の必要性が上がっています。現在はどこへ行くにもチャーターが必要で、大きな出費の原因となっています。車の寄贈は奇跡でしょうが、もっとも欲しいモノの一つです。また、PC及びその周辺装置、デジカメなども必需品です。ご不要になったものをご寄贈ください。

・中古クライミングギヤ

昨年終盤のワークショップは総勢100人ほどの中・高校生がAWを利用しました。シューズやハーネスの消耗が激しく修理不能なものが多数発生しました。また、外岩のツアーを実施しましたが、ヘルメットが現在5つしかありません。不要になった古いもので十分ですので、良かったらお送りください。

・寄付・寄贈について

2012/3/31 現在までの、寄付金累積総額は、**¥3,574,873 + US\$7,290** となりました。また、里親基金累計総額は、**¥1,050,000 + US\$1,250** です。ご寄付をいただいた方54名様、ご寄贈いただいた方17名様、及び里親となっていたいただいた方は4名様となっています。大変ありがとうございました。

2012年1月～3月までに、ご寄付、ご寄贈、里親出資いただいた方は下記の通りです。なお本お知らせは、email版ニューズレターと連携して対応する期間に寄付された方のお名前だけを本誌にて、順次お知らせしています。

ー寄付

小林光子様、清水不二様、高橋千鶴子様、本郷恵理子様、林 武子様、大澤昭夫様、浅田信一郎様（順不同）

ー里親

堀田圭子様、才原明男様、榎澤健治様（順不同）

ー備品寄贈

Entre Prises Chaina（香港）様、SCA（シンガポール）様、（株）ロストアロー様、（株）モンベル様、森山議雄様、本郷恵理子様、堀田圭子様、伊藤洋美様（順不同）

※本郷恵理子様には、「AngkorCup2012 開催公式報告書」の英文化をボランティアでやっていただきました。ここに記して感謝いたします。



★★★ 寄付金用口座 ★★★

■ゆうちょ銀行

記号 10010
番号 75286831
口座名 アンコールクライマーズネット

■三菱東京UFJ銀行

支店名：調布支店
預金種目：普通預金 口座番号：0081781
口座名：アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認出来ます

http://www.angkorclimbers.net/can_donation.html

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）
伊藤忠男気付
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506
tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）
Angkor Climbers Net (ACN)
tel. +855-(0)77-508653, +855-(0)12-1759970

・郵便住所
POBOX 93044, Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

・所在地
c/o Moloppor Café
Wat Bou village, Salakomrauk commune
Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

■ email info@angkorclimbers.net



セイハのフォール →

5.12aの核心部でフォールするセイハ。この日は柔道の稽古が午前中にあったせいか不調でフォールを連発。ビレイヤーはキムスロイだが、良い練習になったろう。

← 毒蜂の巣

3月定期点検でさすがの野人たちもたじろいだ。クランプのチェックはスキップ。夜間に襲撃して排除するといっているが、刺されるとただ事じゃないらしい。



contents

- 01 Angkor Cup 2012
- 02 AW 再生へ向けて
- 03 Angkor Cup 2012 レポート
- 05 外岩ローインパクトツアーの試み
- 06 2011 9~12月 活動報告
 - Workshop レポート
 - ACN-YOUTH
 - その他
- 07 From ACN's Desk
 - 事務局から
 - カンパのお願い

※写真、地図、イラストはすべてACNオリジナルコンテンツです

editor's note

9号をお届けします。今号は欲張って特集が3つになりました。AWは竣工してから早2年を越え、3回目の雨季を目前にしています。安全な施設として存続するために来年は一度解体、そして再生へと向かうプランをスタートします。クライミングがカンボジアの子供たちの成長に寄与できる健全なスポーツとして根付きかけています。今年の12月に開催するAngkor Cup 2013が、最後のコンペにならないよう、あらゆる方面からの支援協力を得て、その再生を実現したいと思います。次号は雨季に開催する模擬コンペの報告になるでしょう。(Chu)

©禁無断転載

アンコールクライマーズネットニュースレター

2012年3月号 NO.9 2012年3月31日発行

非売品

発行人 伊藤忠男
編集人 伊藤忠男
発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506
tel 042-498-2488 fax 042-498-2488
www.angkorclimbers.net